

藝大通信

03
JUNE
2002

TOKYO
GEIDAI
東京芸大広報誌

特集 新学長に聞く

インタビュー 変革期の芸術教育 聞き手・国谷裕子

座談会 21世紀をになう感性 中野公吾 金兌赫 J·S·ギレスピー 小坂咲子 平山学長

開かれた大学 「アフガニスタン—悠久の歴史展」をめぐって

学生のいる風景 平成13年度 卒業・修了制作展

新学長に聞く

独立行政法人化をはじめとした、

大学改革の渦中に

六年ぶりに再登板した、平山郁夫新学長。

インタビューと座談会によって、

芸術教育にかける情熱と理念に迫る。

インタビュー

変革期の芸術教育



再登板への意気込み

国谷（裕子） 今回は二度目の学長就任となります。まさに大学改革の真っ只中ですね。一九九五年に学長を退かれて、今回再登板を決意をされたのはどのような理由からでしょうか。

平山（郁夫） 急なお話ではあったのですが、これは大変な大学改革だと。一般的の大学ならともかく、芸術関係の大学ですから。

私は旧制の最後の世代に属しています。旧制が六十年ぐらい、新制大学が六十年足らずで、約百十数年。今回の大学改革で新たに半世紀はもたせなければいけないんですね。恐らくこの二つを通過している人はいないと思うんですね。ですから、虚心坦懐で、私心がなく客観的に臨めるということが一つですね。

国立大学では、芸大しか文化を代表するところはないので、多少は自分を犠牲にしてもやむを得ないと。皆さんと協力して、ある時期、集中的にという覚悟をしましたね。覚悟したより、フッと出されたという感じでしようね。

国谷 ワンポイントリリーフだとおっしゃっていますけれども、具体的にリリーフの期間はどれくらいだと考えていらっしゃいますか。

平山 大学改革のスケジュールから言いますと、平成十三年度末に新しい「国立大学法人」像についての最終報告が出されました。十四年度は、各大学が独自性を持つて、決められた枠の中での「自主性」を討議する期間で、これが固まると、十五年度に法令化するわけです。十六年度から独立行政法人化に入るというスケジュールです。

国谷 そうすると、大体二年ぐらいですか。

NHK「クローズアップ現代」のキャスターとして鋭い問題意識で知られる国谷裕子さんが
人間・平山郁夫の「本音」を掘りさげる。



しようね。

国谷 なぜ、平山さんに白羽の矢が立つたと、何を期待されどご自分ではお考えですか。

平山 客観的な立場で、芸大を見られると思われたのでしようか。私は、旧制の最後の幕引きをやつて、そのまま新制大学の芸術大学の助手に残ったわけです。手さぐりで新しい大学制度になって、カリキュラムをはじめ、あらゆるものを試行錯誤しました。特に実技の科では先生方もわかりませんし、助手のいちばん若いのが、「君、何か考えろ」というんですね。もし、私がやるのなら、こういうふうにやればというふうに考えました。敗戦後の混乱の時代に再編成しようというのですから。そのときの経験も今度の新しい改革に生かせということではないかと思うんですけどね。

国谷 これからは今まで以上に、大学はトップダウンであるとか学長のリーダーシップが問われる時代と言われていますけれど、平山さんの指導力が期待されているということでしょうか。

平山 独立行政法人化で、私学になるのかといった不安感があるんですけど、国立大学であることには変わりはないですね。ただし、文部科学大臣から学長が任命を受けます。よりよい大学にするためにもつと成熟し、脱皮して、自立的にやりなさいと。教職員は非國家公務員となります。政府から交付金が出ますけれども、中期教育目的として独自の制度、あるいは研究・教育内容を出せば、さらに重点的に予算がおりますよと。ですから、研究、教育をやりながら大学を経営しなさいという面もあるわけですね。

今までいろいろな意味で制度疲労が来ていています。

これは大学だけじゃなく、政治も経済も、あらゆる部門が。二十一世紀は数合わせじやなく、次の段階へ移

る。時代の趨勢ですし、今までの経験をもとに先見性をもつて、思想や理念をもつて積極的に取り組んでいきたいと思います。

国谷 独自性や経営能力が大学に問われているというお話ですが、平山さんがあえて学長を引き受けられた背景には、相当の危機感も心の中ではおありになるのではないかと、感じたんですけれども。芸大として独自性を持ちながら、もしかして生き残れないかもしけないという、そういう思いはおありますか。

平山 人類の文化の歴史を見ますと、例えばルネッサンスが非常に優れた業績を残している。イタリアのメデイチ家は、海外貿易や金融関係で、当時の進んだイスラム文化に啓発されて、これがルネッサンスの引き金になつたわけです。しかし、政治的環境からすれば、権謀術数で、大変な時代でした。

ミケランジェロがシスティーナ礼拝堂の「最後の審判」を描いたとき、法王がお金を払ってくれないので、馬に乗つて戦場まで追いかけていつて、報酬を認めさせた。激しい変化がある時代で、だから名作も生まれた。時代が移行するエネルギーがあつたわけです。二十一世紀の日本はいかにあるべきか、転換期をエネルギーとしてとらえて、みずから次の世界へ移行するんだという意識や責任感が必要でしょう。

再編・統合の時代に

国谷 大学の再編や統合の動きが活発になつていますけれども、芸大として、よりよい教育、よりよい創造、感性を育てる教育を行うために、具体的な連携とか、あるいは統合とか再編を考えていらっしゃいますか。もし考えていらっしゃるとすれば、どこの大学が具体的なパートナーとして適切だと思つていらっしゃいますか。

芸術系の創造を特化する大学は、芸大のほかにないんです。大学によつては芸術的な要素を必要とするところはたくさんあるわけです。しかし、芸術大

学の教育は質が違うものですから。教養的なものや基礎研究は大変必要なんですね。

ただ今日必要とされるのは、国際的に大学の質を高めなさいということでしょう。今まででは追いつけ追い

越せでしたけど、芸術大学として世界に伍してとなると、一般教養とは異なるさまざまな勉強もしなければいけません。

平山 芸大のすぐ近くには東大という大変立派な国立大学があります。感性を磨くためには幅広い教養も必要ですし、いつも平山さんがおっしゃっているアーティンティティのある学生たちを育むためには、歴史や文化も知らなければいけない。東大という、教育の場としては優れた国立大学がある中で、具体的に一緒に協力してもおかしくないと、外から見えるのですけれども。

平山 我々の時代でも、旧制の第一高等学校や東大から、国文学や美術史など、当時の東京美術学校にないものを客員教授で来ていただきて集中講義を受けたり、また向こう側にないものは美術学校の教授が教えに行くことはありました。ただ同じ歴史、教養と言つても質が違うんですね。「一」プラス「一」が「二」にならないんですね。我々のほうは「一」プラス「一」は「五」や「六」に持つていろいろというわけですから。

博識で辞書みたいに物事を知つていていることと、自分の新しい解釈で理論立てをするということは違うんですね。自分の学問や芸術に対する理念、哲学というものをしっかりと持つことが個性なんですね。

ものを生み出す、クリエイトと言うのは、思想、哲学なんです。学問的に細かく分析して実証するという学問の分野と、これを読んで美的な創造をするというのは、ちょっと質が違うんですね。

国谷 一方で学生たちを見てみると、平山先生は今の学生たちは自由の中の不自由だと。自由があるがために、自分で何をやりたいか、自分が何のために描くかという、強い思いを持つて創作活動に当たつていな



平山郁夫
ひらやま・いくお

1930年広島県生まれ。

52年東京美術学校卒業、73年東京芸術大学美術学部教授、88年美術学部長を経て、89年学長に就任。95年任期満了により学長を退官。2001年東京芸術大学学長に再就任。財団法人文化財保護振興財团理事長、ユネスコ親善大使など公職多数。1998年に文化勲章受章。

いのではありませんかとおっしゃっていますね。

平山 これは時代の宿命といいますか。私は戦争中に育つて、不自由な中で、それで自由を見出しました。自分が座つたところに何かを見つける。環境や条件を理由にするようだと、一生だめなんですね。

私は、インドや中国の街中では、季節も問わず、絵を描き出す。どこでも座つたところがアトリエだという訓練や修行をしてきました。スポーツ選手を例にとつても、オリンピックの何万という観衆の中で、瞬間に勝負に挑む。限られた状況の中で大変な集中力と訓練が要るわけですね。

国谷 自分の中の思想を持つということとかそういうのを具体的に学校の中でどうやって教えていくんでしょうか。

平山 人類はどういうふうにして文化や文明を起こしてきただけ、その原理原則を勉強したり、文学や音楽でも一流に接することでしょう。

私が美術学校に入ったとき、戦争が終わるまで教授をやっていた第二回卒業生のおじがいたんです。美校には、おじに乗せられて入ったのですが、途中でしまつたと思いましてね。才能がないので二回くらい、やめようと思つたんですが、どうせなら文学部に入つて美術史を学ぼうと、一生懸命勉強したことがありで役に立ちました。自分で苦労しながら、どういう状況でも何かを見つけていくといふんじやないかと思いますね。

技術や感性、あるいは生き方、生きざまの面で自分の「型」を持っているいい先生や友達や先輩がいますと、彼らの背中を見ますので、私の場合、いい人に巡り会つてということがありますね。美校をやめたいと思つたときに、すばらしい先生に出会つて「だれでも一度は落ちていくんです。着地したのだから、これより下がることはない。浮上するから、気を樂にしてやり直してみなさい」と言われたんです。だれでも、一度は挫折しますしね。二回も挫折したら、平気になつてちょっとやそつとではつぶれなくなりますから。自覚するのは早いほどいいなと思ったことがあります。

国谷 技術面では、ある程度長く教えていれば向上するかと思うんですけども、芸術家に必要な感性やオリジナリティの創造ということを、学校という環境で教えることの難しさを、改めてひしひしと感じますけれども。

平山 既成の知識や技術は教えられるのですよ。そこにはどまつているとコピーだけになります。そこから脱したときに生まれる応用問題がオリジナルなんです。応用問題の答えは、だれも教えてくれませんから。

そのときに何を足がかりにするかというと、自分で一生懸命培つてきた教養や基礎をもとに、少しずつでも高い目標を掲げていけば、視野が広がつてくるわけです。点が線になつて、理想が高いほど一生かけてやりおおせない座標が出てくる。簡単には到達しませんが、座標は狂いません。目標や理

念があると、何度でもそこへ挑みかかるしていく。その無駄なものが幅になり、蓄積されて、プラスになる。表に出るのは氷山の一角のわずかな部分なのです。それはやつてないと出でこないですね。

験と、その人の持つている才能の融合が必要なのですね。

これからは国立大学も実績を求められていくといふことで、本当に結果を出していかないと、第三者機関によって評価されるという仕組みにもなつてしまいります。そうした中で、先生の考えを伺いますと、教官の

方々の任用システムをいかにしてつくつしていくか、そして、さまざまなことが求められています。その中で、運営もおこなつていくことも考えなければいけないな

改革の根幹とおっしゃる教官の方々の役割分担は、どのようにしていくのでしょうか。

平山 旧制美術学校時代は、よい研究教育には優れた教官が不可欠だと言わっていました。我々の時代、トップの先生は、長くいてくださいと言つても、ご自分の創作活動がありますし、非常に難しかつたと思うんです。ですから、大体一〇年ワンサイクルで、ご自分で教えが一応完結すると辞意を表明するわけですね。

自分の主張、教育理念は終わつたから、次の先生にお渡ししますと、また次の時代に育つた一流の先生が入つてくる。ですから、新しい空気を絶えず入れていて緊張感がありました。

国谷 最近はどうですか。

教官の役割、教官への評価

国谷 一人ひとりの学生としての体

平山 常勤の教官が国家公務員、終身雇用ということで、助手は年限を設けているところもありますけど、講師以上となると、定年までずっとおられるという制度になり、ご自分で辞意を表明されない。優秀な教官を選抜するんですけど、中にはさらによくなる人もいれば、少し安心してゆっくり歩く人もいるわけですね。いい研究をやるには刺激しなければいけないので、

十年ぐらいで任期制を導入しようと。その前に点検評価があるんですが、普通は制度がなくても自主的にやらなければいけないんですよ。私の場合、卒業以来五年間、グループ展や個展で、年じゅう作品を発表しています。独立したらいつもタイトルマッチをやつて



国谷 裕子

くにや・ひろこ

大阪府生まれ。ブラウン大学（アメリカ）卒業。国際関係及び国際経済専攻。
1993年よりNHK総合テレビ「クローズアップ現代」キャスター。
94年に橋田須賀賞、96年に放送文化基金賞を受賞。

すか
平山 そうですね。それは役割分担があります。

国谷 大学の経営能力を持つていらっしゃる方とかも必要ででしょう。

平山 研究は飛び抜けていなくとも、教育が非常にうまいという先生もおられます。人間的に非常に立派で、親切で面倒見がいい。基礎をしっかりとたき込んで、非常に気配りがいるわけです。必死になつて生き残らなければ生活ができないんですよ。一度獲得した地位なんていうのは仮のもので、最後に残るのは実力なわけですね。

随時作品を発表している先生もおりますけれど、発表する機会がない、場が少ない分野もありますね。幸い、大学美術館や奏楽堂をつくつてもらいまして、そこで教官の発表を五年おきぐらいにやつて、内外の評価を受ける。皆さん力を持つていますから、立派な業績を上げると思います。そこをクリアしてご本人がずっと研究教育をやりたいと言えば定年までいられますし、残念ながらもうちょっと勉強してくださいといふ人は自分で道を確保することになる。そういうことが教官自身の勉強にもなり、学生にも刺激を与えますしね。

国谷 教官の中にも緊張感を高めていくということですね。世の中、能力主義や実力主義と言われていますけれども、終身雇用の中の、いわゆるおつとりとした雰囲気は変えていきたいと思われているわけですね。

平山 競争原理というのか、作品を発表しながらどんどん成長していくというのは制度とは関係ないんですね。本来なら、芸術家として研究者として、当然の義務なんですね。ですから、客観的に見えにくいという分野もありますけど、今までやつていないとこのことは、怠つていいことですね。

国谷 教官が皆さん一流の芸術家で、作品がすばらしい方々ばかりでも教育者としては困るんじゃないですか

あるタイプですね。「鬼軍曹」という言葉がありますが、初年兵に訓練を叩き込む役割の教官も必要なわけです。教育に優れた人、研究に優れた人、チェック機関がそれを選別して、不公平感がないように持つていかなければいけないと思いますね。

国谷 役割を明確化しながら、それぞれの物差しで優れた方々を残していくというやり方ですね。

平山 すべてを同じ尺度で評価すると、逆に総合的にはなりませんのね。

今回はさまざまな制度を支えるのに、事務職員の方が大変だと思います。独立行政法人化に関する問題を、我々は精神的に表現しますけど、それを第三者が読んでもわかるような文言に置き換えていただくのですから。「一」プラス「一」は「四」だなんて言つたら、数学では落第しますけど、そういうことをわかりやすく説明して書いていただかなければいけないわけですね。

国谷 第三者機関の評価というのが導入されて、その評価によつて交付金も変わつてくる。効率性がすべての面で問われるわけですが、とりわけ芸術大学としての業績・実績に対する評価は、第三者にわかるものなんでしょうね。

したら、一ヶ月で二十八万人の入場者があつた。大観先生は美術学校の第一回目の卒業生です。二回目が菱田春草で、音楽には山田耕筰先生がいるなど、大変な芸術家を輩出してきたわけです。

科学技術的な先端技術などの場合、発明されたときが一番のピークで、だんだん古くなりますね。ところが、横山大觀先生は、この間も展覧会中にオーケションをやりましたら、不景氣にもかかわらず大変な高値で落札されたんですよ。そういうふうに見ますと、すぐには数字には出ませんけど、付加価値というのがあります。何年かに一回、優れた芸術家が出ると、その総財産というのは大変なものだと思うんです。

フランスのド・ゴール大統領がアルジェリアの独立問題のとき、私はちょうどユネスコ・フェローで留学中だつたんです。ド・ゴールは軍人出身の大統領たつたんですけど、アルジェリアの植民地を維持するのに何個師団必要で、毎日いくらかかるんだと苦慮したんです。その結果、民族自決主義で独立するんだから、人権を尊ぶフランスは認めるべきだというので、撤退命令を下した。何万人の軍隊を出して、お金をかけて恨まれるより、我々には文化という鉱脈がある。フランスのパリには、セザンヌ、ルノアール、マネがある。たとえば、セザンヌの価値を金銭で換算したら、桁外れなんですね。だから、一人でも立派な芸術家が出れば戦争を続ける意味はないと悟つたんです。そこで文化を育てて国際貢献する道を選んだのです。

芸術大学の美術館にある立派な創造作品を公開したり、あるいは教官が作品展示をしたり、あるいは奏楽堂で音楽の先生たちが演奏することで、少しでも社会に還元したい。時間はかかりますけど、そういう中から優れた卒業生が将来育つたときに、いい作曲が生まれ、いい作品が生まれ、何百年も伝わつていくわけですね。長い目で見ていただきたいと思います。

国谷 ほかの大学ですと、技術開発がベンチャー企業につながり、新しい産業創造にも結びつくというわ

りやすい形で大学の業績が出てくるかと思うんですけども、芸大の場合は時間をかけて見てほしいということでしょうか。

平山 ええ。文化、芸術というのは、国の品格なんですね。日本の古い文化遺産が、ヨーロッパ各国やアメリカの美術館にたくさん収められ、大事にされています。浮世絵にしても、海を渡るとき「包み紙」で行ったものが、今や何十万ドル、何百万ドルというふうな高価になっているわけですね。これは日本の国有のものだ、それを育てているんだという気持ちでお願いしたいと思っています。

国際交流のあり方

国谷 大学として国際交流にあえて力を入れることで、どういうメリットがあるというふうに思われますか。

平山 この二月にもフランス、アメリカに行つて、パリのエコール・ド・ボザールやギメ国立東洋美術館、アメリカではスミソニアンのフリア美術館などと、交流について話をしました。

二十一世紀の新しい芸術創造といつても、それぞれの国がアイデインティティを持つて変革しているわけです。我々の場合でしたら、飛鳥、天平からの千数百年の歴史がある。その背後には朝鮮半島や中国やインド、東半球のアジアの歴史があります。ヨーロッパはギリシア、ローマ以来の歴史を背負っています。交流することによって、我々は日本のアジアの特質を、しつかり自覚するようになると思うんですね。

国谷 國際舞台に出ていくほど自覚されることがあります。

平山 EUが一つになることで、スペインやオランダのような小さな国の個性がなくなるのかというと、かえつて成熟していくと思うんです。自分たちのものをしっかりと持つて発言し、お互いに交流するわけですね。

国谷 岡倉天心以来の日本美術の近代化をしたいと

おっしゃっていますけれども、日本美術はまだまだ世界レベルでは勝負できていない、というふうに思つていらっしゃいますか。

平山 日本人は非常にシャイなんですね。原理は中国から導入しても、日本人の感性で、優れたものをつくり出しているわけですが、外で見せびらかすような性格じやなかつたんですね。外国人が評価して初めて自覚する。それなのに、外国の二番手ぐらいたに喜ぶ場合もある。極端なんですね。無国籍になつたんでは絶対に尊敬されませんね。

国谷 誇りを持ってほしいということですか。

平山 日本人は日本人としての矜持を持つて欲しいですね。控えめで、少し内気ですが、つき合いを深めるとわかつてもらえますしね。

例えば俳句なり和歌でも、枕詞に密度の高いものがインプットされています。風土も含めて、曖昧ではなくて寛容なんですね。一神教の合理主義の國の価値観もあれば、日本のように寛容な、共生共存しましようという価値観もある。お互いを理解した上で、交流できれば非常にすばらしいんじゃないかと思うんですね。

世界遺産の保存と創作活動

国谷 平山さんといえば、世界の遺産の保護・保存にも力を入れていらっしゃいますけど、今、大きな問題になつていているバーミヤンの破壊された仏像ですが、

先日、イランの映画監督のマフマルバフ監督にインタビューする機会があつたんです。監督はバーミヤンの破壊された仏像はあるまにしておいたほうがいいのではないかとおっしゃつたんですね。これは世界がアフガニスタンを見捨てた歴史的な恥の象徴として、そのままの形で私たちの記憶に残しておくべきではないかというふうにおっしゃつていたんですね。平山さんのお考へはいかがでしょうか。

平山 私も 修復、再現には反対なんです。いろいろな意見があるようですね。三百万に近い難民が家を

失い、イランあるいはパキスタンで路頭に迷い、食べるものもなく、教育ができないというのに、なぜコピーをつくるのかと率直に思います。そういうお金があれば、まず人を救うべきだということで、私は、反対代表から、先週カンダハルから電話がかかりまして、五月にカブールで国際会議を開催するので、ぜひ出席してくださいという要請がきました。

国谷 そうしますと、あのまま残そうというお考えでしようか?

平山 私は二十世紀の負の遺産が人道的にアウシュビツ、核の廃絶という問題では広島の原爆ドームだと考えています。原爆ドームのユネスコ世界遺産登録のときに一生懸命動いたんですけど、同じようにバーミヤンは二十一世紀初頭の文化的破壊で、これをそのまま残したほうがいいと言っています。破壊されたままの状態で世界遺産に指定するべきだということを早くから提言しているんです。

国谷 最後に、学長としての務めもありでしょが、やはり芸術家として創作活動に全力で打ち込んでいらっしゃりたかったのではないかと思うんですけど、これからはどのような作品に取り組んでいかれますか。

平山 今でも会議があつても、帰つて筆をとらない日はないですね。

飛鳥、天平時代は随分描きましたので、今度は平成をテーマに「平成の洛中洛外」という題で構想しています。時間があると京都へ取材に行つておりまして、三、四年後に、新作だけの大きい個展をやりたいと思っています。

国谷 では、創作活動のほうも引き続き活発に続けていかれるわけですね。

平山 ええ。これから十年が私の最後の仕上げだと思つてます。この間、いろいろな意見があるようですね。三百萬に近い難民が家を

座談会

21世紀をになう感性

これから芸術表現・芸術教育をになう4人の学生が
アーティストとして、また日本を代表する国際人として活躍する平山学長に、芸大の現状と未来を問う。



先端技術と芸術教育の関わり方

平山（郁夫） どうぞリラックスして、自由にお話しください。

中野（公吾） では先鋒でやらせていただきます。いまはグラフィックデザインにかぎらず、アート全般にコンピュータがだいぶ入ってきていますが、芸大のコンピュータへの取り組みは一步出遅れた感じがしています。もっとも、最近はだんだん充実してきているようですが、今後のヴィジョンについて伺いたいと思います。

平山 ものをつくる人は、まずものをつくる原理、原則を学ぶ必要があると思うんです。美とは何か、人類が美をどういうふうに発見し芸術が始まったか——ラスコーの壁画が描かれた時代は芸術の概念など存在していませんでした。でも、生きることに必死だった時代に人類はあれだけのものをつくっていたわけですね。先人が時代の流れとともにどういうものをつくってきたかを勉強し、現在どうであるのか、そして将来どこへ行くのかということを考えていくわけです。ですから、まず基礎をしっかり勉強して、それから美の価値観を自分でつくることが、ものをつくる原点、アイデンティティになるわけですね。

いま皆さんは大学院ですから、基礎はひとり勉強されて応用段階に入ったと思うんですね。表現手段としてコンピュータを使う人もいれば、手だけつくる人もいるでしょう。お互いに影響しあいながら自分の芸術をつくっていただきたいのです。

伝統を学びながら現代を見つめる

金（兌赫） いま伝統というお話をあります。だが、伝統というものは時代によつても捉え方が違つてくると思いますので、現時点では伝統をどう捉えるべきなのか先生のお考えをお聞きしたいのですが。重ねですよね。日本の伝統、韓国の伝統どちらですが。伝統というものは、過去の膨大な積み重ねですよ。

言われますが、人類全体の足跡を考えてみると、それぞれの国の伝統は複雑にからみあい、つながっているのです。

たとえば日本人が日本文化は独特だと思つていても、縄文土器や弥生土器はすべて日本列島の中でつくりだされたのではなく、朝鮮半島や中国、あるいはベーリング海のほうを取り大陸から伝えられた技術もありました。やがて大和政権の時代になり、四～五世紀に国家が誕生しましたが、ローカルな価値観だけでは国は統一できませんから、六世紀中頃に当時の文化先進国である中国大陸や朝鮮半島から仏教文化というかたちで取り入れたわけです。しかし、大陸の文化に飲みこまれるのではなく、日本に從来あつた価値観や宗教——神道と連動して神仏混交し、日本民族に合うかたちで受けとめた。いろいろな影響を受けながら歴史をつくつていつたのです。

この仏教も美術として見ると、インドから中央アジアを通つて中国本土に来たわけです。が、インドにもヘレニズム文化やササン朝ペルシャとか、ギリシャ、ローマの文化の影響が入つてゐるわけです。つまり、仏教文化にはユーラシアの文化がいろいろな形になつて流れ込んでいます。ですから、伝統を探ると、全人類が書き上げたということがわかります。伝統を捉えるとは、歴史をどこまで辿るかということでもあるわけです。

近代に視点を移しますと、こここの美術学校ができたのは約百年前ですが、アメリカやヨーロッパの進んだ近代手法をかりて日本文化の近代化を図つたわけです。そういうふうに、新しいものをつねに取り入れながら、でも日本独自と言える文化は続いているわけですね。断絶しないで、どの時代でもつながつてゐる。

伝統のなかにあるさまざまなものと、将来どんな方向に行くのかを考えながら、自分の夢を実現させるように布石していくと点が線になつて自分の主張ができる。いま皆さんは試行錯

誤しながら、そのベースをつくっています。迷うこともあるでしょうが、目標があれば少々迷つても無駄にならず、幅になるはずです。

(J-S) ギレスピー 邦楽をやるためにには、伝統と言いますか、ある程度の文化的あるいは文学的な教養が必要となるとよく言われます。でも、現在の日本人は日本文化にあまり目を向けず、邦楽の世界を活かすための最低限の知識を身につけていない役者も増えている状態です。これから邦楽の豊かな世界が続いていくためには、芸大でどのように崩れかけた日本人の文化的な意識を改めるべきでしょう。

平山 これは、一番大切な問題を突きつけられました。たしかに邦楽などは大変難しい言葉——語る言葉とは違う言葉で、非常に文学的に書かれています。しかも、日本的な情感が要求されますが、現代の日本人の生活ではそうした情感は失われつつある。

ドナルド・キーンという日本文学がご専門の先生がいますね。私も対談したことがありましたが、方方が第二次大戦後間もなく頃アメリカへ渡り、そこで日本文化の影響が入つてゐるわけです。つまり、仏教文化にはユーラシアの文化がいろいろな形になつて流れ込んでいます。ですから、伝統を探ると、全人類が書き上げたということがわかります。伝統を捉えるとは、歴史をどこまで辿るかということでもあるわけです。

近代に視点を移しますと、こここの美術学校ができたのは約百年前ですが、アメリカやヨーロッパの進んだ近代手法をかりて日本文化の近代化を図つたわけです。そういうふうに、新しいものをつねに取り入れながら、でも日本独自と言える文化は続いているわけですね。断絶しないで、どの時代でもつながつてゐる。

ことになりかねない（笑）。芸術は国境がないのですから、それでもいいんですけれど。

やはり伝統の素晴らしさは気づいたときは大事にするようにしたいと思いますね。芸大で、大変ありがたいと思いますが、本家でも邦楽科が一生懸命やっています。アメリカやヨーロッパの人たちが、日本文化に興味を持って一生懸命勉強してくださるというの

は、それだけ日本の文化が広がるということでも邦楽科がもうちょっと頑張らないと申しわけないです。

芸術と社会の接点をいかにして作るか

小坂（咲子） いま、日本から流れ出てしまふということについてのお話がありました、逆に外から取り入れたいものについてお話ししたいと思います。何回か海外に出て感じた

ことです、あちらには劇場があつて経営者がいて、演奏家たちがいて、聴衆がついてまわる。音楽のためのピラミッド型の社会層があるわけです。音楽を発信するだけではなく、聞き手まで含めた社会組織について考える人が出てきて、日本にも音楽を中心とした社会が定着したら、どんなに音楽は先行き幸せだろうと思うんです。今度新しい学科ができたと聞きました、音楽環境創造学科ですか。ぜひ

ひ、劇場の経営面を長期で見通せる人材の育成、それも文学ですか、美術、音楽に理解がある方を育成していただけたらと思います。

平山 ヨーロッパの場合、宫廷やパトロン、あるいは社会的な力や経済力を持つ人が、多少お金がかかろうと皆の共有財産として芸術を守つて來たんですけど、日本の場合は将軍家や大名が庇護する以外には、そういう伝統がありませんよね。ひとところ、文化に理解のある企業がメセナ活動として経済的に支援ましたが、景気の良し悪しにかかわらず本当に保護してずっと育成していく力がまだ整備されていません。いま文化庁で芸術文化振興基金をつくつて支援したり、昨年の十二

月に芸術一般に支援する文化芸術振興基本法が制定されました。が、芸術は政府や国が支援して組織的に行なわないと難しいと思います。

たとえばビルをつくるときに建物の何パーセントかは美術的な要素を必ず入れる国があります。壁画や彫刻、あるいはステンドグラス、モザイクと、その場限りではなく美術として付加価値のあるものを義務化させる。たとえばイタリアのフィレンツエでは王侯貴族がそういうことを実践しまして、あつちにはミケランジェロ、こつちにはレオナルド・ダ・ビンチというふうに、世界の宝である壁画や彫刻が建物の中に残っていますよね。それが本当の文化国家だと思います。

中野 国の政策として芸術を振興していくく

いう方向性は素晴らしいと思います。ただ、一般的の人々が芸術に関心を持たなければ美術館には人は来ないと思うんです。よくヨーロッパに行かれる先生からお聞きする訳ですが、たとえば音楽の演奏会をやると、どんな小さな演奏会でも必ず反応があつて、新聞などに

——褒められるか褒められないかは別としても——何か書いてくれるそうです。でも日本では何の反応もない、それがいちばんつらいというようなことをお聞きしたことがあります。

平山 日本も江戸時代には、「ぜいたくしてはいけない」なんていうお触れが出ますと、着物の裏に非常に凝つた材質やデザインをした。目に見えないところに凝つた元禄時代は、非常に庶民的な芸術のセンスがあつたわけですね。日本人の審美眼がだんだん失われてしまつたのは、教育の問題という一面もあると思います。情操教育は小学校、中学校から必要なのに、音楽や美術の時間は進学に役に立たないというので少しずつカットしてしまつたといふので、どうぞかでバランスどばかり追い求めていくと、どこかでバランスが崩れます。真善美という言葉がありますが、美しいものは非常に合理的なんですよ。真善美的バランスが崩れると、世の中おかしくな

くなるわけです。

ですから、たとえば子ども部屋なども、家具や敷物などの色の置き方をくつろしてレイアウトすれば幼い頃から美意識が磨かれます。小学校、中学校、あるいは家庭でセンスを磨く雰囲気に持っていくようにすると、自然に審美眼ができあがってくると思うんです。

町づくりもそうです。環境や都市計画がきちんとされていると気持ちもいいですし、わが町の意識を高めるよう、まず芸大がお手本になつて社会との交流を持たなくてはいけませんね。

多様な世界での交流のなかから学ぶこと

司会 金さんは韓国から芸大に来られました
が、そろそろつきつかず、理由はなんですか。

金 韓国は、土地の大きさで見れば狭い国ですよね。現実的な話なんですが、油絵をたくさん描いてもなかなか売れないだろうし、かといって置く場所もない。それなら、版画を勉強したほうがいいんじゃないかと思いつたんです。版画なら自分が死ぬまで絵をかいても置く場所は確保できるだろうと(笑)。むしろ、東洋人には版画は合うかもしれないなと気がついて『社会版画画集』という本を見たのですが、日本の木版画は私にかなりインスピレーション

は書かれていない内面的な部分があるんだなと
気が付いたんです。活字ではわからない部分で
すね。

そこで舞台でしたがうたしのを身につけようと思ひ、茂山先生のもとで狂言のおけいこを始めたんですね。内面的な部分をある程度つかむにはかなり時間がかかるものですので、結局日本で本腰を入れることになりますて、

平山 言葉では伝えられない、教えることができないものは、日本にたくさんあるんですね。能楽や邦楽でよく「間」と言いますけれど、それはいつたい何秒間だとストップウォッチで計らうとしたところで数字が出てくるわけがない、その場その場で違いますから。それはいま二年です。

センスであつて、言葉で教えられて
できるものではない。試行錯誤を繰
り返しながら体得するしかないもの
です。もし誰かが文字でわかりやす
く表現したらすばらしいですよ。難
しい心理状態を文字で書くことが
できたら、大変いいと思いますけれ
ども。

金兌赫
キム テ ヒョク
1965年韓国生まれ。中央
大学校芸術学部西洋画学
科卒業（韓国）。東京芸
術大学大学院版画専攻修
了。現在、美術研究科博
士課程1年。



中野公吾
なかの・こうご
1966年生まれ。東京芸術大学美術学部デザイン科卒業。現在、大学院美術研究科修士課程デザイン専攻2年。マルチ・メディア、インターラクティブデザインを中心にして研究中。



ては本当の精神は出でてこないのであります。玄奘三蔵はインドへ行くまでのさまざまの苦労を通じて人生を悟つたり、異文化と接触したりして、人間を深めたわけですね。その結果で翻訳していますから、自分のお経になつてるわけですよ。

同じようく日本の伝統も、たとえば英語にでも翻訳してもらうと、また違う伝統が出てくると思います。ギレスピーさんは、孤軍奮闘されいることでしょう、いろいろなことをすべて新しく経験して。私もいろいろ国に行つてるので、よくわかります。本当に命がけだつたんです。こういうふうに迷い込んでしまい、アラブ兵に鉄輪でつけられて尋問されたこともあります。中東戦争だのアフガン戦争だの。ルドアップしながら、これはやられるや空間や自然にぶつかります。そういう際交流をしながら、いろいろなことを勉めていますね。

砂漠を走り回つていたとき、こういうこともありました。大きな木があつて、朝、東から暑い日が照つているので西側の日陰に座つて、お茶を飲みながらじっとしているおじいさんがいたんです。それで、一日じゅう走り回つて夕方帰つてみると、そのおじいさんがやはり木の影にいるんですね。ですから、今度は東側に移動して、やはりじっと座つている。ひげを生やしていて哲学者みたいな風貌なんですが、一日じゅう何もしないんですね。それで私が「ちょっと絵をか

G 国際交流でもう一つ質問があるんですけれども、この前能狂言が、ユネスコの世界無形文化財の遺産とされました。邦楽の世界では国際化はかなり進んでいますが、能楽界にしても邦楽界にしても、内側——日本ばかり見てしまっているように思います。そうしたなかで留学生を受け入れてくださることは非常にありがたいことですが、将来日本のさまざまなお伝統芸能を世界に広めていく学生に、学校としてどのような教育ができるでしょうか。

平山 ユネスコの世界遺産に指定されたとは言つても、邦楽をいきなり外国へ持つていても、あまりに唐突で、何をやっているんだろうと奇異の目で見られてしまうでしょう。ですから、まず邦楽や日本文化についてわかりやすく広報することが大事だと思います。ギレスピーさんの場合は、日本の中世文学を勉強されていましたから、能樂の心情を理解する土壤ができるたと思いますが、そういった知識がないところへいきなり持つていっても、初めはなかなかわかつてもらえませんよね。徐々に知識を広め理解させるような努力が、交流が必要だと思いますね。

専門が違う分野から得る斬新な視点

小坂 他学問との交流も積極的に行つていいきたいと思うんです。たとえば演奏家は身体を動かすですから、医学的なこと——骨がどうやって筋肉と結びついて身体が動くのかとか、音が耳に入つて、右脳にどう働きかけるかとか。演奏する会場の大きさによって緊張の度合いがどう違つてくるのか——などを勉強すると広がるのではないでしようか。

香りでハチやチヨウチヨウを呼び寄せて花粉を運んでもらうわけですから、花が美しいことはすなわち生きることだとわかつてきます。生物学や自然科学を一般教養として学ぶことで、美をさまざま視点で考えられるようになると、いざ絵を描くときにも色の分量などで役立つと思います。

逆もありますね。わざとアンバランスな色、破綻するような色を塗らないと、中間色だけで塗つてもおとなしすぎてつまらなくなります。音楽もそうですよね、どこかピーケで、ぐつと破るところがある。これも数学的な、比例配分のバランスがあるわけです。

これがさきほど言った真善美なんです。私は以前ヒマラヤのエベレストで絵を描きましたがたがたがたがたが震えながら、十一月のクリスマス前後がいちばん空気が澄むと言うので、二日ほど自力で登山して寝袋で寝ながら、零下二十度のところで絵を描いたんです。体感温度はマイナス二十五度ぐらいでした。あんなの初めてですよ、もう死ぬかと思うぐらいに酷寒の中を登つていきました。二重の手袋をして帰つてきました。もともと身体はそんなに丈夫じゃないのに、なぜ耐えられたのかというと、これはどうしても描きたいんだという意志があつたからできました。

絵を描くとき、タクトを振るとき、演奏するときは無心状態ですが、そういうふうに集中しているときが一番、身体は合理的的に動いているわけです。絵をかくときに絵の具のまぜぐあいやいろいろな定着剤の分量だとかをいちいち考えているようではだめなんですよ。絵を描いているときはとにかく夢中で、何をどうしたかわからぬで描いているときが、身体も疲れないし調子がいいんです。

皆さんは自分流にいろいろと勉強してると思いますが、専門が違うほどはつとするときがある。他の学部や大学に聞きに行くなど交流のチャンスはあつたほうがいいと思っています。

中野 学部同士の交流という点では、僕はクラスの代表をやっていたり、芸術祭の実行委員長をやつていましたので他学部の学生と交流を持つ機会に恵まれましたけれど、一般的の学生同士ではなかなか交流でキャンパスの間に道路があること、されているように、完全に分断している。でも、校舎が入り組んでもいいかと思うんです。音楽学部、美術学部、やっているのは、これから時代はおかないかと。

平山 絵の展覧会に音楽の学生と絵を見て即興で何か作曲してもらっているは作曲してもらっているうちに構んで絵を描くという場合もあるでしょ。そういうお互いの交流の場をどんどんと見かけたらいいんじゃないでしょうか。音楽の先生も呼んで絵を批評するなど、専門の違う先生からは全く予想外のことを見ないところがありますが、専門の違う先生からも結構な意見が聞けます。音楽の先生も呼んで絵を批評するなど、専門の違う先生からも結構な意見が聞けます。

金 二週間ほど前に留学生会館に入りましたが、留学生同士で展覧会の準備を進めたりして、学生同士の交流はかなりあると思います。いろいろな国の学生さんが集まっているので、いろいろな文化を日本で知ることができます。それができるチャンスだと思います。

小坂咲子
こさか・さきこ
東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を野田暉行、松下功、金子晋一、安部幸明の各教官に、音樂学を船山隆教官に師事。現在、大学院音樂研究科博士課程2年。



Jesse Stuart Gillespie
1979年アメリカ、ノースカロライナ州生まれ。クレアモント・マッケナ大学を日本文学専攻で卒業。現在、大学院音楽研究科修士課程能楽専攻(朝倉流シテ方)1年。



また、わたしは今国際交流会館に住んでいます。とても快適な生活をさせていただいていますけれども日本のこと学んだり知識などを吸収するだけでなく、こちらからも韓国の文化を日本の方に紹介したい気持ちがあります。国際交流会館や学校では、なかなかそういう機会がなくて、もったいない気がします。

平山 日本人と入り乱れて住めばそういう壁が越えられるということはよく話題になるんですけどね。いま何人ぐらい、国際交流会館に住んでいます。

か。
十人強ですね。

えは、言葉による違いがそうです。ヨーロッパ語圏では最初に主語があつて、すぐ動詞がありますね。きちんとした文法があるわけですが、日本法は日本にもありますけど、主語がなくなることもありますし、たり動詞がなくなることもありますし

場合によつては直截にものと言うのを
を避けて悟つてくださいと相手に委
ねる言いまわしもあります。日本語で
は動詞が最後ですから、そういう文
化の相違というのはありますよね。

制度化を含めた改革が必要

司会 最後に一言、教授陣の評価についてお願ひします。

発表する機会をたくさん持っている先生はいるのです。でも、専門分野によつては、そういうチャンスを持たない先生もいますので、実力が表に出てこない場合がある。不公平にならぬようにしていけるよう制度化しなくてはダメですね。

金 韓国の場合には、大学に五年とか七年ほど勤めたら、一年間は研究年といつて、給料が出ながら休暇をとつて好きなことを研究できるんです。でも、そういう日本にはそういうきちつとした制度がありませんよね。

中野 日本は、いわゆる偏差値教育で来ていまして、未だに世の中のほとんどは偏差値で成り立つていると思うんですけど、唯一それに対抗できるのが芸大じゃないかと思うんです。政治にしろ経済にしろ、どんなジャンルでもクリエーティブな資質は必要だと思います。そして、それは偏差値教育だけでは育ちませんよね。芸大がクリエーティブな資質のモデルを示していけば、社会全般の芸術に対する考え方も変わっていくと思うし日本全体のプラスになつていくと思うんですけれども。

平山 つねに一流のものに接していただきたいですね。演劇にしても音楽にしても美術にしても、二番手以下は全部捨てて、外国のものでも日本のものでもとにかく評価の高いものをインプットする。材料もけちらないで、いいものを使う。一流志向でやつてくださいよ。生活は二流でもいいんです、でも、材料とかそういうものは今一流のものを使いこなしておけば、今度粗末なものを使つてもその良さを活かすことを覚えますからね。

平山 どうぞ皆さん、頑張つて、大成していく下さい。

平山 どうぞ皆さん、頑張って、大成してください。
(四月二十四日、東京芸術大学学長室)

NEWS

2002.4～
2002.6

音楽環境創造科の 目指すもの

音楽部に設置された
50年ぶりの新学科

渡辺健二



◆芸術国際交流協定の締結

○英國サリー・インスティチュート・オブ・アート・アンド・デザイン大学との締結

五月十三日、サリー美術大学からエイレン・トーマス学長、アン・デュームロウデザイン学部長等が、本学からは平山学長、宮田美術学部長等が出席し、本学において大学間国際交流協定の調印式が行われた。

同大学は一八六六年設立のノアーナム・アート・カレッジを母体とし、デザイン学部など三学部・大学院を有している。

今回の調印により、本学の交流協定締結校（大学姉妹校）は、八カ国十五大学となりた。

◆外国人留学生懇談会を開催

五月二十日、大学美術館内学生食堂において、留学生と学長、学部長をはじめとする関係教職員、チューターとの交流を通じて理解を深めることを目的とした懇談会を開催した。学長挨拶の後、八七名の留学生を代表して丁熹均（美術・博士後期課程三年、韓国）さんが謝辞を述べた。また、今回初めて奨学金支給団体からも参加していただき、盛会のうちに終了した。

最後に新任の専任教官のコメントを載せておく。

「**「つくり手のたまご」と「つなぎ手のたまご」**が一緒に孵化する場」というのはとてもスリリングな挑戦です。音や音楽のこれからの方を探り、新たな音環境や新たな受け手を創出してゆくには、社会の変化に敏感に反応するセンスをもつたつくり手が必要ですし、創造の本質を熟知しつつ潜在的なニーズを掘り起こすつなぎ手が不可欠です。現代美術の分野では、社会とアートの関係を刷新し、アートマネジメントの新しい境地を拓いているのは多くのアーティストたちです。音楽の分野でもこれか

交 流

ストラを派遣した。シャルル・デュトワなどの指揮のもと、演奏会を成功裏に導いた。



◆初の邦楽総合アンサンブル 「熊野の物語」終始聴衆を魅了

五月三日、演奏芸術センター企画、邦楽各ジャンル参加による「熊野の物語」が美術学部の協力も得て開催された。本学始まって以来のユニークな企画に対し、会場はほぼ満席状態となり、約一時間三十分にわたって、終始聴衆を魅了し、感動のうちに演奏会は終了した。



◆四芸祭、芸大は総合優勝

第四十八回四芸術大学体育・文化交換会が五月二十三日から二十六日まで、愛知県立芸術大学において行われた。バーレーボールを始めとする八種目の競技会では毎日熱戦が繰り広げられ、本学は三種目で一位となるなど、二年連続総合優勝を飾った。

受 章・受 賞

◆別府アルゲリッチ音楽祭 特別オーケストラを派遣

第五回別府アルゲリッチ音楽祭が四月二十六日から二十九日まであり、招請を受けた音楽学部が学生を主体とした特別編成のオーケストラアーティストたちです。音楽の分野でもこれか

たわけであるが、ここでは、新しい音楽芸術創造、音や音楽を取り巻く環境の考察・創造といふ目的のために、芸術や社会について様々な観点からアプローチ出来るようなカリキュラムが考えられている。

こうした観点から音楽環境創造科が設置されたわけであるが、ここでは、新しい音楽芸術創造、音や音楽を取り巻く環境の考察・創造といふ目的のために、芸術や社会について様々な観点からアプローチ出来るようなカリキュラムが考えられている。

◆増村紀一郎教授紫綬褒章受章

平成十四年春の褒章において、増村紀一郎教授（漆芸）が紫綬褒章を受章された。

らさまざまな実験が立ち上がつてくると思いま
す。そうした試みのイニシアティブを握つてい
くような人材は、つくり手であり同時につなぎ
手である可能性も高いのです。

三〇〇人を超える志願者のなかから栄えある

第一期生となつた一〇人は、年齢やバックグラ
ウンドもさまざまな個性派そろいです。音楽環
境創造科の教育環境のほうはまだまだ発展途上
の段階ですが、パワフルな彼ら／彼女らなら逞
しく学んでくれると信じています。快く新校舎
を提供してくださった先端芸術表現科の先輩た
ちや取手でともに学ぶ美術学部のみなさん、上
野でともに学ぶ音楽学部のみなさんと、刺激に
満ちた交流が始まることを期待しています」（熊
倉純子）

「音楽環境創造科の中心になる科目は〈プロ
ジェクト〉と呼ばれ、複数の教官、学生による
実践活動の場です。音楽の表現は、録音や放送
技術の発達、さらにコンピュータによる音声の

デジタル処理やネットワークで飛躍的に拡大さ
れました。そこでは、従来の音楽の枠にはまり
きらない、新しいコミュニケーションの可能性
があります。〈プロジェクト〉では、このような
新しい領域の研究や作品の制作、さらに地域社
会との連携などが計画されています。

芸大が持つ人材、設備、教育システムは、新
学科にとてももちろん大きな財産です。先日、
奏楽堂で公演された『熊野の物語』は実際に刺激
的な催しでした。

このような企画に音楽環境創造科の学生達が
でたくさんのこと学んでくれればと思います」（西岡龍彦
（わたなべ・けんじ／音楽環境創造科開設準備
室・器楽科助教授）



取手校地「メディア教育棟」を利用した音楽環境創造科の講義風景

運 営

◆平成十四年度入学式を挙行

四月十日に学部、大学院、四月二十六日には本年度新しく設置された音楽学部音楽環境創造科の入学式がそれぞれ奏楽堂において挙行された。入学の歓びを胸に新入生、父兄等が多数参列した中、学長から新入生に対し入学許可の告知があり、引き続き式辞が述べられた。当口は、学内各所で在校生による歓迎演奏やクリフ会説等、にぎやかに新入生歓迎祭が実施された。また、四月九日には音楽学部附属音楽高等学校の入学式が高校内ホールにおいて行われた。



◆美術、音楽学部選出評議員 決まる

四月一日、美術学部堀口光彌教授、音楽学部川井学教授が新たに評議員となつた。また、美術学部は大藪雅孝教授、中林忠良教授が、音楽学部は村井祐児教授、岡山潔教授が再任。任期は二年間。

他の評議会構成員は大学ホームページの「大学案内—大学概要—評議員名簿」をご覧ください。

大学公式ホームページ
<http://www.geidai.ac.jp>

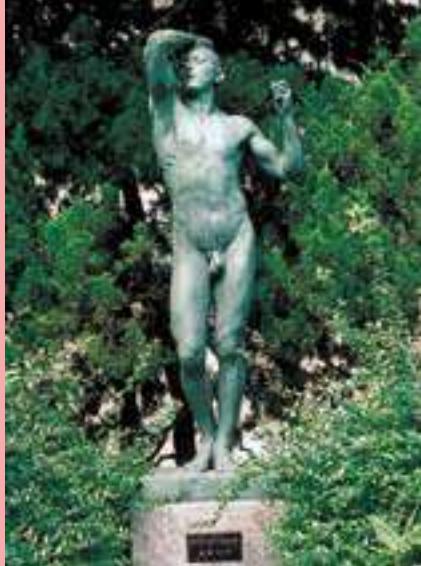
◆名誉教授称号授与式を実施

五月七日、学長室において、名譽教授称号授与式が行われ、多年にわたり本学の教育・研究活動に多大な貢献をされ、本年三月に退職された次の八名の方に対し、東京芸術大学名譽教授の称号が授与された。当口は、原正樹氏が都合により欠席し七名での式典となつたが、平山学長から各氏に名譽教授の称号が授与され、式典終了後、記念撮影と懇談会が行われた。

坂本一道、原正樹（欠席）、望月積、小松敏明、歌田眞介の各氏（以上、前美術学部教授）
南弘明、山岡耕作、上參郷祐康の各氏
(以上、前音楽学部教授)

◆「メディア教育棟」竣工・音楽環境創造科設置記念式典を実施

六月二十日に、取手校地(茨城県取手市)のメディア教育棟は、鉄筋コンクリート地上五階建て、総延べ床面積五〇五〇m²。美術学部先端芸術表現科、音楽学部音楽環境創造科の教室や、附属図書館分室など記念式典が行われた。



ロダン「青銅時代」
1925年寄贈

東京美術学校1923年

関東大震災

—時代をかえた9月1日

佐藤道信

日本近代美術史。主要著書『〈日本美術〉誕生—近代日本の「ことば」と戦略』『明治国家と近代美術—美の政治学』

その日、朝からの雨もあがり、上野の杜は穏やかな秋の日を迎えていた。竹の台陳列館では、院展も開幕し、横山大観の「生々流転」が話題をさらおうとしていた。でも学校はまだ夏休み。閑散としたいつもの昼を迎える所で、時代を変える大地震がおこった。九月一日午前十一時五十八分。幸い学校の建物に大きな被害はなかったが、上野公園は時間とともに下谷、浅草、神田、本所、深川、日本橋など、被害の大きかった地域からの避難地として、五十万ともいいう人々であふれ返っていました。校内も一時、一万人以上の人で身動きもとれなかつたらしい。

鈴木信一は、その対応に獅子奮迅の働きをした。教務掛主任で校内に住んでいた彼の奮闘は、「震災日記」(校友会月報二二一五)に詳しい。人々が、まず求めたのは飲み水。校内の二つの古井戸を使った。しかし最大の脅威は火事。東京から立ちのぼる煙は、遠く高崎からも見えたとい。翌二日夜、風向きが変わり、松坂屋を焼いた炎が上野の杜に迫ると、人々は火のなかつた谷中から田端方面へと避難した。降り注ぐ火の粉の中を大移動する人々の阿鼻叫喚は、さながら地獄絵巻のようだったとい。鈴木らは、必死に校舎を火の粉から守った。類焼をまぬがれた校内に残ったのは、千人あまり。食糧難、病気と続いた困難を経て、授業が再開されたのは、二ヶ月後の十一月一日だった。

しかし大災害の時には、奇妙な精神的トランスもおこ

るらしい。校友会月報の同じ号にのった「震災漫画記」は、意図的にか拍子ぬけするほど明るい。描いたのは学生の安本亮一。彼自身、焼け出されて、学校で被災者に救援にあたつていた。また朝倉文夫は、粉々になつたロダンの石膏像「青銅時代」を完全に修復した。この像は、デルヌニスが学生・教官の研究のため、一年間美校に預けていたものだつた。朝倉は、この修復で逆にロダンの技法を十分に研究できたと、のちのち語つていった。地震の話をフランスできいたテルヌニスは、二年後あらためて今度はフロンズ像を寄贈する。いまも正木記念館と旧芸術資料館の内庭にある像である。

この大地震を機に、日本は右傾化していくのだが、美校の自由と明るさは、不思議なほど変わらず、その後もしばらく続いたらしい。治安維持法が公布された一九二五年からは、軍事教練が始まつた。まるで美校生をさせられたかのような「現代の青年が一般に芸術を愛し、文弱に流れつづある」傾向の矯正と、「健全なる生活」がめざされた。文部省の「体育デー」に従い、翌二六年には運動会が、また二七年からは野外演習も始まつてゐる。しかし当初、教官も無理強いはしなかつたらしく、学生は教練には下駄や草履でバラバラの服装、野外演習も体育や遠足気分で結構楽しんでいたらしい。当時の時勢からすれば目くじらのものだろうが、今から見ればむしろこっちの方が健全にも見える。ひいき目だろか。

(さとう・どうしん／美術学部芸術学科助教授)



震災漫画記「正木校長先生、鈴川先生親子対面を見て涕泣の事」



震災漫画記「避難者に水接待の事」



震災漫画記「校内慰問袋配給の事」

タイムカプセルに乗つ

近 年は年末になると、「第九」公演が日本各地で年中行事のように行われている。そのベートーヴェンの交響曲第九番全四楽章が日本で初めて演奏されたのは、一九二四年（大正十三）十一月二十九日と三十日である。東京音楽学校第四十八回定期演奏会においてであった。両日とも大盛況で、一週間後の十二月六日には追加公演の運びとなつた。これまた満員であった。指揮はドイツ人のグスタフ・クローン。お雇い外国人教師としての十二年間の在職中に、彼はベートーヴェンの九つの交響曲のうち、六曲の本邦初演を手がけた。「第九」初演は、クローンの日本における総仕上げ的仕事であつた。

初日の十一月二十九日の聴衆の中には、物理学者の寺田寅彦（一八七八—一九三五）もいた。彼こそ、夏目漱石の小説『吾輩は猫である』に出てくる洋楽好きの理学士、水島寒月のモデルである。寅彦はいろいろな楽器を嗜んだ。なかでも高校時代に始めたヴァイオリンは、東京帝大の物理学教授となつた後も独学で続け、四十歳からは、『叱られて』や『靴が鳴る』の作曲者として有名な音楽学校教授、弘田竜太郎（一八九二—一九五二）に師事して基礎から学び直すほどの徹底ぶりであった。「第九」の記念碑的な初演にあたつても、寅彦は事前に「アを買い込み、レコードに合わせて「タクトを振りながら」念入りに予習した。SP盤で十数枚になる「第九」は、蓄音機で聞くだけでも大仕事である。

夏目漱石は英国留学から帰った明治三十年代後半、洋楽フリークの寅彦に連れられてしばしば奏楽堂に通つた。その漱石も大正五年に他界しており、寅彦は自分が同じ漱石門下の親友、小宮豊隆を「第九シンホニーへ行く気はありませんか」と、まず十一月十八日づけの葉書で誘つた。その数日後にはチケットを同封して、「椅子の番号がH 19 20というように並びになつて居るから、別々に行つても一処になれます。併し何なら一時に地震学教室迄誘ひ被下げはそれから上野迄一処にある会前日の二十八日にも、小宮に宛て、「娘の嫁入も大事

東京音楽学校1924年

ベートーヴェン 「第九」の 本邦初演

瀧井敬子

音楽学（ドイツ・ロマン派、および日本洋楽草創期の研究）。主要論文「幸田露伴と音楽、そして妹の延」「東西音楽の接点－音楽におけるジャポニズムの一断面」

だがおやぢの内部生活も大事だから万障縹合せ、昼食位は棄権しても第9ジユンホーだけは出席致度存じます」と、一筆したためている。実は、寺田家では三十日に長女貞子の結婚式を控えていて、その準備に何かと忙しかつたのだが、寅彦は自分自身の「内部生活」を優先させた。



左：クローン指揮の東京音楽学校管弦楽団と合唱団
上：寺田寅彦（1920年頃の自画像）
右：小宮豊隆宛の1924年11月18日付けの絵葉書



屋根も窓も壊された国立カブール博物館（5月）

人の手による文化財破壊

今夏に開催する「アフガニスタン—悠久の歴史展」の準備のため、アフガニスタンを訪れた。

そこで、国立カブール博物館の現在の姿を見た。

一九八九年のソ連軍撤退後の内戦やその後タリバン政権下の強固な偶像崇拜禁止策のために、多くの文化財が破壊された。とくに昨年三月砲弾によってバーミヤンの巨大石仏が崩壊された様子は、テレビ映像によつて世界中に配信され、世界中の人々に衝撃を与えた。

そもそも古代から連綿と続く古文化財は、人為的な力が加わらなくとも、自然に「破壊」されるものである。

野外にある石仏や建造物などは、風雪に耐えて今日にまで存続するが、それとも一年一年、いや一日一日と風化しているはずである。幸い博物館に保管されている文化

世界中の人々に衝撃を与えた、タリバン政権によるバーミヤンの巨大石仏破壊の衝撃的映像。皮肉にも「破壊」によって脚光を浴びることになったアフガニスタンの至宝が、大学美術館でまたたく間に公開される。

開かれた大学 アフガニスタン文化財復興支援 「アフガニスタン—悠久の歴史展」をめぐつて

竹内 順一

財であっても、物質上は同じように退化している。いわゆる「経年変化」である。石や磁器といった堅牢なものは、その退化をまぬがれようが、紙や布、あるいは木でできた文化財は、私たちの眼に見えないとしても、厳密には、少しずつ完成時から退化している。かつて金沢工業大学で、紙の保存に関する国際シンポジウムが開かれ、「和紙」の優れた特質、すなわち経年変化に耐える力があることが議論された。その折、何がもっとも文化財を破壊するか、という話題になつた。出席者一同は、酸性雨でも公害に汚染された空気でもなく、「人の手」による破壊がもっとも多いという結論に達した。

国立カブール博物館は、戦争による破壊である。なかに展示・保管されていた文化財は、四散してしまった。まさに人の手によつて壊されたのである。この博物館は王宮



フランス国立ギメ東洋美術館における「アフガニスタン—悠久の歴史展」の会場風景（3月）



展示作品の一部

アフガニスタン文化財復興支援「アフガニスタン—悠久の歴史展」は、7月16日（火）から9月16日（月）まで大学美術館で開催される

（これも砲弾によって廃墟となっている）の前に位置して、世界中の人々から愛された美しい建物であった。幸い破壊をまぬがれた数少ない文化財（彫刻や壁画）の一部が、大学美術館へ特別出品される予定である。

今春、パリのフランス国立ギメ東洋美術館で「アフガニスタン—悠久の歴史展」が

開かれ、好評のうちに五月下旬に終了した。それが芸大美術館に巡回する。
折しも本年は「国連文化遺産年」という文化財保護のキャンペーンの年にあたる。文化の保護の意味をあらためて考える機会としたい。

（たけうち・じゅんいち／大学美術館長）

夏から秋への大学美術館 2002.7>>>2002.10

特別陳列 明治の彫刻展

竹内久一と石川光明

近代彫刻史に大きな足跡を残した一人の作家

横溝廣子

東京美術学校彫刻科初代教授であった竹内久一（一八五七—一九一六）の代表作である「伎藝天」は総高二八〇センチを超える鮮やかな彩色が施された木彫で、一八九三年（明治二十六）に開催されたシカゴ・コロンブス世界博覧会でも好評を博した近代彫刻史上重要な作品です。その鮮やかな彩色が経年変化による保存状態悪化のために展示することができず、その修復が永年の課題でした。

東京国立博物館の「海を渡った明治の美術—再見！」一八九三年シカゴ・コロンブス世界博覧会（一九九七年開催）や当館の開館記念展「芸大美術館所蔵名品展」（一九九九年開催）では当然目玉の一つとなるべき展示候補として挙げられましたが彩色膜の剥落の恐れがあるために移動させることができないとなされ、やむなく断念せざるを得ませんでした。

このたび平成十二年度より開始した修復がようやく完了し、そのご披露を兼ねた特別陳列を企画しました。伎藝天のほかに、その試作の首、一八九〇年（明治二十三）の第三回内国勧業博覧会で妙技二等賞を受賞した神武天皇立像、執金剛神立像（東京国立博物館所蔵）などの久一の大作、および当館所蔵の小品十数点を展示します。また、この機会に東京美術学校開校まもない頃から久一とともに大正時代まで彫刻科の教授を務め、やはり近代彫刻史に名を残す生誕一五〇年の石川光明（一八五二—一九一三）にもスポットを当てます。光明の作品としては伎藝天と同じシカゴ万博出品の「浮彫觀音菩薩像」（東京国立博物館所蔵）と一九〇〇年（明治三十三）パリ万国



竹内久一「伎藝天」1893年

ウィーン美術史美術館 名品展

「ルネサンスからバロックへ」
海外の一流美術館との交流の第一歩を記す

薩摩雅登

東京芸術大学大学美術館とNHKは、

「ヴィーン美術史美術館名品展 「ルネサンスからバロックへ」」を、十月五日から十二月二十三日まで開催いたします。これは、開館三周年を記念する大規模な企画であるとともに、今後、海外の一流美術館との交流を深めようとする大学美術館の第一歩でもあります。

カール大帝の戴冠八〇〇〇年から一千一百

年を経てヨーロッパが再び統合への道を歩む今、十三世紀から七〇〇年の長きにわたり継承されたハプスブルク帝国は、ドナウ河周辺に栄えつつ汎ヨーロッパ的な性格を失わなかつた王朝として、文化と伝統をあらためて見直されています。その栄光を歴史に刻むように収集・蓄積された美術品の数々は、現在ではヴィーン美術史美術館

の基幹コレクションになつており、歴代諸

博覧会に帝室技芸員として出品した牙彫の「古代鷹狩」（宮内厅三の丸尚蔵館所蔵）といふ彼を代表する二つの作品や、光明の作品としては異色の彫漆技法による漆屏風（当館所蔵）などの当館所蔵品を展示します。

明治時代において帝室技芸員に任命された彫刻家は高村光雲、石川光明と竹内久一の三人です。最も有名な高村光雲については、ちょうど開催中の回顧展「高村光雲とその時代」展（三重県立美術館・茨城県立近代美術館・千葉県立美術館・徳島県立近代美術館）にて当館所蔵の光雲作品が展示中であるため、今回の特別陳列には含むことはできませんでしたが、光雲ほどの名声を得ることがなかつたにしても明治彫刻界に君臨し、追従を許さなかつた一人の技をじっくりご覧いただければ幸いです。

（よこみぞ・ひろこ／大学美術館講師）

（よこみぞ・ひろこ／大学美術館講師）

この趣味を反映してルネサンスからバロックの絵画に珠玉の名品がそろっています。その中から精選された、デューラー、クラナハ、ティツィアーノ、ティントレット、ベラスケス、レンブラント、ルーベンスなど、約八十点で構成される今回の展覧会は、ヨーロッパの正統的な美術文化の香りをひ

さびさに日本で体験できる貴重な機会になります。とりわけ学生諸君には、学内で開催されるという地の利を活かして、ここから少しでも多くのものを吸収してもらいたいと願います。

(さつま・まさと) 大学美術館助教授



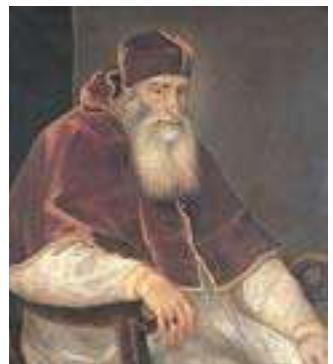
ベラスケス「青いドレスのマルガリータ王女」1659年



クラナハ「キリストの磔刑」1501年



アルチンボルト「水」1566年



ティツィアーノ「法王パウルス3世」
1546年頃

展覧会予定

(2002.7~2003.3)

大学美術館本館

芸大コレクション展

「靴屋の親爺」とその周辺
8月4日（日）まで
入場料300円

～アフガニスタン文化財復興支援～
「アフガニスター悠久の歴史」展
7月16日（火）～9月16日（月）
入場料1200円

**特別陳列「竹内久一と石川光明
—明治の彫刻展—**

8月13日（火）～9月16日（月）
入場料300円

開館3周年記念

「ウィーン美術史美術館名品展
～ルネサンスからバロックへ～」
10月5日（土）～12月23日（月）
入場料1300円

退官記念展（2教官）

1月9日（木）～1月26日（日）

入場無料

第51回卒業・修了制作展

2月21日（金）～2月26日（水）
入場無料

陳列館

(仮) 大学院美術研究科博士後期課程研究発表展
12月～2月の間
入場無料

(仮) 吾妻兼次郎デッサン展
7月2日（火）～7月12日（金）
入場無料

建築科椅子展
9月中 入場無料

(仮) 研究室展（油画）
10月上旬～10月中旬 入場無料

伊藤廣利遺作展
11月7日（木）～11月24日（日）
入場無料

取手館

美術学部取手校地創作展
12月7日（土）・8日（日）
入場無料

※開館時間は、いずれも10時～17時。
月曜日休館。ただし月曜日が祝日の場合、開館することがあります。

※展覧会の名称・会期については、変更することがあります。

※本学には駐車場はありませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。

※展覧会についてのお問い合わせ
東京芸術大学大学美術館
Tel.03-5685-7755
NTTハローダイヤル
Tel.03-5777-8600

※展覧会の紹介は、下記ウェブサイトでご覧になれます。
<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

夏から秋への奏楽堂 2002.7>>>2002.10

規模の大きさ、質の高さが際立つ学生主役の企画

前田信吉

モーニングコンサート



「モーニングコンサート」より

毎年、定期的に行われている各学年別の
前期・後期実技試験の中から、三年生（ピ
アノ科は二年生も含む）を対象として、二
十二名の学生が選抜されます。その選ばれ
た学生が、次年度にオーケストラとのコン

チャートのソリストを務めたり、作曲した
管弦楽作品をオーケストラによって初演さ
れたりする演奏会がモーニングコンサート
です。選抜される学生は、ピアノ、弦楽器、
管打楽器各科から六名ずつ、そして作曲科

から四名です。原則として、一回の演奏
会に一名ずつ登場します。芸大音楽学部の
教育活動の中で非常に高度な水準にある、
この企画は、約三十年前から継続して実践
されています。

このモーニングコンサートは、選抜され
る学生の質の高さ、オーケストラとの十分
な練習時間の設定、そして二十二名の学
生が抜擢されるという規模から考えて、
世界の他の音楽学校でも類例を見ない素晴らしい

企画ではないでしょうか。

一九九九年度から奏楽堂に会場を移して
開催されていますが、いわゆる一般の学外
からのお客様の数、そして継続してお見え
になる方々の増加がこのほど非常に目立つ
ております。なお、担当するオーケス
トラは、すべて、管弦楽研究部オーケスト
ラ（芸大フィルハーモニー）です。

（まさだ・しんきち／管弦楽研究部講師）

百年の歴史を誇る、芸大オケの個性的な活動 オーケストラ第二〇〇回

有賀誠門

東京芸術大学にオーケストラがあることは、一般にはあまり知られていません。「芸大」オーケストラと聞くと、学生オーケストラと間違えられてしまうこともしばしばあるくらいです。当初は教官と学生による混成メンバーでしたが、現在は非常勤講師によつて組織され、菅沼準二部長のもとに運営されています。

東京芸術大学管弦楽研究部演奏記録（山本武雄編）によると、第一回定期公演

は、一九八八年十二月四日であり、なんと百年の歴史を歩んできたことになる。このオーケストラは、春、秋の二回の定期公演、オペラ定期、新人演奏会と公演は少ないのですが、次代になつ学生たちのための教育研究活動にどれほど貢献しているか計り知れません。若き演奏家、作曲家にとつて、このオーケストラとの協演が登竜門の一つなのです。モーニングコンサートでは、他で聞くことのできない作品や演奏を聴くことができます。

一九八八年、奏楽堂オープニングでは王役を演じました。浦田健次郎作曲「式典

曲」、南弘明作曲「電子交響曲第五番」、野田瞳行作曲「開眼会」（独唱、混声合唱とオーケストラのため）、いずれも委嘱世界初演、矢代秋雄作曲「ジアノ協奏曲」、さらに一九九九年、二〇〇〇年は、「音と色彩、音と絵」（若杉弘発案）、「オルガンとオーケストラのための幻想曲」（尾高淳忠作曲、委嘱世界初演）とユニークな活動をしてきました。今年から「世界のマエストロ」シリーズがはじまり、G・ロジェストヴェンスキーを迎べ、ハイドン作曲「四季」を取りあげ、次回はネロ・サンティを予定しています。このように芸大オーケストラは、さうに進化しています。大学の独立行政法人化にむけて、強力な対外戦略を考える上で重要な役割をになうことになるでしょう。音と音樂、音は環境を創り出す。音樂環境創造科も創設され、芸大はルネッサンスを迎えています。十月二十五日、二〇〇〇回定期はさひSTEP UPになる劇的的な公演になるでしょう。これからオーケストラ活動から自分が離れない。

（まさだ・しんきち／音楽学部打楽器科教授）

奏楽堂演奏会予定

(2002.7~2003.3)

定期演奏会・特別演奏会予定

7月 1日 (月)

学生オーケストラ学内演奏会

17:30開演 入場無料

[曲名] 交響曲 第2番 二長調 (J.ブルームス)

交響曲 第4番 小短調 (J.ブルームス)

[指揮] 小林研一郎、ハンス・マルティン・シュナイト

[管弦楽] 東京芸術大学音楽学部学生オーケストラ

7月 3日 (水)

吹奏楽学内演奏会

18:30開演 入場無料

[曲名] ラメント (高 昌師)

ヴァレンシアの寡婦 (ハチャトゥリアン)

火の鳥組曲 (ストラヴィンスキイ) ほか

[指揮] 中村克己

[管弦楽] 東京芸術大学音楽学部管打樂器専攻学生

7月 4日 (木)

モーニングコンサート 第7回

11:00開演 入場無料

[出演] 川井夏香 クラリネット協奏曲 第2番 変ホ長調作品74 (ウェーバー)

根津理恵子 ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調作品21 (ショパン)

[指揮] 佐藤功太郎

[管弦楽] 東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

7月 6日 (土)

「うた」シリーズⅡ

奏楽堂に響く声2002

第2日 Variety of Voice—さまざまな声種の競演 (オペラ名曲ガラコンサート) —

18:30開演 1,800円 (自由席)

[曲目] オペラ《フィガロの結婚》より『愛の神よ』他 (モーツアルト)

オペラ《セヴィリアの理髪師》より『今のが声は』他 (ロッシーニ)

オペラ《椿姫》より『プロヴァンスの海と陸』(ヴェルディ) ほか

[指揮] 佐藤功太郎、沼尻竜典

[出演] 伊原直子、永井和子、直野賀、平野忠彦、井ノ上了史、今尾滋、小畑美実、川上洋司、小林彰英、島崎智子、吉田伸昭、大学院学生 ほか

[管弦楽] 東京芸術大学音楽学部学生オーケストラ

7月11日 (木)

モーニングコンサート 第8回

11:00開演 入場無料

[出演] 木村華子 2台のピアノのための協奏曲 二短調

鈴村真貴子 (ブーランク)

門脇大輔 ヴァイオリン協奏曲

二短調作品47

[指揮] 小林研一郎

[管弦楽] 東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

7月11日 (木)

「ステファンスカ先生追悼演奏会」

18:30開演 1,800円 (自由席)

[曲目] ピアノソナタ 第2番 変口短調

op.35 「葬送」 (ショパン)

ポロネーズ 変イ長調 op.53

「英雄」 (ショパン)

エチュード ホ長調 op.10-3
「別れの曲」 (ショパン)
主題と変奏 op.3 (シマノフスキイ) ほか

[出演] 植田克己、遠藤郁子、石岡千弘、神野すなほ、根津理恵子

7月18日 (木)

モーニングコンサート 第9回

11:00開演 入場無料

[出演] 伴野涼介 ハルンと管弦楽の為の協奏曲 作品28 (アッテルベリ)
鈴木慎崇 ピアノ協奏曲 第2番 変口長調作品83

[指揮] 田中良和

[管弦楽] 東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

9月 5日 (木)

モーニングコンサート 第10回

11:00開演 入場無料

[出演] 太田あすか (作曲) 深海の孤独 田中麻貴 (作曲) ARASHI

[指揮] 田中良和、佐藤功太郎

[管弦楽] 東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

9月 7日 (土)

“うた”シリーズⅡ

奏楽堂に響く声2002

第3日 Microcosmos of Voice

—歌曲の小宇宙—

17:00開演 1,800円 (自由席)

[曲目] フランズ歌曲 『旅への誘い』 (デュバルク) ほか
ロシア歌曲 『ドン＝ジュアンのセレナード』 (チャイコフスキイ) ほか

スペイン歌曲 『悲しみのマハ』
全3曲 ほか (グラナドス)

ドイツ歌曲 『夕映えに』、『魔王』 (シューベルト) ほか

[出演] 朝倉蒼生、伊原直子、三林輝夫、多田羅迪夫、平野忠彦、嶺貞子、G.ビリウチ、青木美稚子、佐々木典子、佐藤ひさる、高橋啓三、日比啓子、平松英子、渡辺明 ほか

奥 千歌子、鈴木真里子、高木由雅 ほか (以上ピアノ)

9月12日 (木)

モーニングコンサート 第11回

11:00開演 入場無料

[出演] 中山博之 (作曲) オーケストラのための "Solto"

松本 望 (作曲) 交響詩 "Nostalgia"

[指揮] 若杉 弘、小田野宏之

[管弦楽] 東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

9月13日 (金)

芸術祭 (学園祭) 演奏会

開演時間未定 入場無料

9月21日 (土)

オルガン+α シリーズ 第3回

18:00開演 1,800円 (自由席)

[曲目] ルソン・ド・テネブレより 教区のためのミサより 第8オルドルより《色とりどりのドミノ、又は「女の一生」》 (以上 F.クプラン)

ミゼレーレ (ド・ラ・ランド) ガンバの組曲…『膀胱切開手術』 (マラン・マレ) ほか

[出演] 野々下由香里 (ソプラノ) 芸大声楽アンサンブル、廣野嗣雄 (オルガン)、鈴木雅明 (指揮)

11月 5日 (火)

室内楽演奏会 第1夜

18:30開演 1,300円 (自由席)

11月 8日 (金)

室内楽演奏会 第2夜

18:30開演 1,300円 (自由席)

11月10日 (日)

オルガン+α シリーズ 第4回

15:00開演 1,800円 (自由席)

『バッハの思い出』 ふたりの妻、天国でバッハを語る

[曲名] カンタータ第140番 (J.S.バッハ) ブレリュードとフーガ ト長調 (J.S.バッハ)

トッカータとフーガ ニ短調 (J.S.バッハ) バッサカリア ハ短調 (J.S.バッハ) ほか

[出演] 野々下由香里 (ソプラノ) 芸大声楽アンサンブル、廣野嗣雄 (オルガン)、鈴木雅明 (指揮)

11月22日 (金)

芸大定期 合唱・オーケストラ第301回

18:30開演 1,800円 (自由席)

11月29日 (金)

芸大定期 オーケストラ第302回

18:30開演 1,300円 (自由席)

12月 3日 (火)

芸大定期 邦楽第65回

10月10日 (木)

芸大定期 オペラ第48回 第1日

18:30開演 2,400円 (自由席)

10月11日 (金)

芸大定期 オペラ第48回 第2日

18:30開演 2,400円 (自由席)

【曲名】「ワインサーの陽気な女房たち」 (O.ニコライ)

【指揮】ハンスマーティン・シュナイト

【管弦楽】東京芸術大学管弦楽研究部 (芸大フィルハーモニア)

10月25日 (金)

芸大定期 オーケストラ第300回

19:00開演 1,800円 (自由席)

10月29日 (火)

学生オーケストラ学内演奏会

17:30開演 入場無料

10月31日 (木)

附属音楽高等学校定期演奏会

18:00開演 整理券

11月 2日 (土)

“うた”シリーズⅡ

奏楽堂に響く声2002

第4日 Pleasure of Vocal Ensemble

—重唱の楽しみ—

17:00開演 1,800円 (自由席)

【曲目】《サルヴェ・レジーナ》より (ペルゴレージ)

《タベの音楽》より (ロッシーニ)

《スペインの歌遊び》より 『最初の出会い』 ほか (シューマン)

《二重唱集》より 『渡り鳥の別れの歌』 ほか (メンデルスゾーン)

四重唱曲《愛の歌》より (ブルームス) ほか

[出演] 伊原直子、鈴木寛一、多田羅迪夫、近藤政伸、佐々木典子、日比啓子、平松英子、大学院学生 ほか

東井美佳、奥 千歌子、鈴木真里子、高木由雅、千葉かほる、山口佳代 ほか (以上ピアノ)

11月 5日 (火)

室内楽演奏会 第1夜

18:30開演 1,300円 (自由席)

11月 8日 (金)

室内楽演奏会 第2夜

18:30開演 1,300円 (自由席)

11月10日 (日)

オルガン+α シリーズ 第4回

15:00開演 1,800円 (自由席)

『バッハの思い出』 ふたりの妻、天国でバッハを語る

[曲名] カンタータ第140番 (J.S.バッハ)

ブレリュードとフーガ ト長調 (J.S.バッハ)

トッカータとフーガ ニ短調 (J.S.バッハ)

バッサカリア ハ短調 (J.S.バッハ) ほか

[出演] 野々下由香里 (ソプラノ) 芸大声楽アンサンブル、廣野嗣雄 (オルガン)、鈴木雅明 (指揮)

11月22日 (金)

芸大定期 合唱・オーケストラ第301回

18:30開演 1,800円 (自由席)

11月29日 (金)

芸大定期 オーケストラ第302回

18:30開演 1,300円 (自由席)

12月 3日 (火)

芸大定期 邦楽第65回

18:00開演 1,800円 (自由席)

12月 4日 (水)

芸大定期 吹奏楽第68回

18:30開演 1,300円 (自由席)

1月26日 (日)

「ピュイグ・ロジェ先生追悼演奏会」

15:00開演 1,800円 (自由席)

2月12日 (水)

芸大定期 室内楽第29回 第1日

18:30開演 1,300円 (自由席)

2月13日 (木)

モーニングコンサート 第12回

11:00開演 入場無料

【曲目】 ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調 (F.リスト)

【ピアノ】 山本佳澄

【曲目】 ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 作品23 (P.チャイコフスキイ)

【ピアノ】 大川香織

2月13日 (木)

芸大定期 室内楽第29回 第2日

18:30開演 1,300円 (自由席)

2月16日 (日)

舞曲の系譜IV

15:00開演 1,800円 (自由席)

2月23日 (日)

楽器シリーズIII

15:00開演 1,800円 (自由席)

* 平成14年5月30日現在の予定表です。
今後、演奏会の曲目・出演者については、変更することがあります。

* 演奏会の曲目、開演時間等の詳細について、決まり次第、大学ホームページで発表します。

<http://www.geidai.ac.jp>

* 本学には駐車場はありませんので、お車での来場はご遠慮ください。

* チケットの取り扱い
チケット販売窓口 03-5237-9990 / 東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452 / 東京芸術大学美術館ミュージアムショップ 03-5685-1176

* 上記の演奏会のほか、「学内演奏会」の日程については、下記にお問い合わせください。

* チケット・演奏会等のお問い合わせ先
音楽学部演奏係 03-5685-7700

○旧東京音楽学校奏楽堂

「木曜コンサート」予定

本学構内から、上野公園内に移築・復元された日本に初めて誕生した木造の洋式音楽ホール「旧東京音楽学校奏楽堂」で、各科の学生による「木曜コンサート」の平成14年度の開催予定は、次のとおりです。

会場：旧東京音楽学校奏楽堂

〒110-0007 台東区上野公園8番43号

[JR上野駅 (公園口) 徒歩10分]

TEL. 03-3824-1988

URL <http://www.taitocity.net/taito/sougakudou/>

入場料 (入館料) 300円

第 4回 7月18日 (木) オペラ・指揮

第 5回 8月15日 (木) 声楽 (ソロ)

第 6回 9月19日 (木) ピアノ

第 7回 10月17日 (木) 古楽

第 8回 11月21日 (木) 作曲

第 9回

